

## 第16回「21世紀出生児縦断調査」(平成13年出生児) 結果のポイント

文部科学省が平成30年9月28日に発表した「21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)」の第16回(平成29年)の結果によると、子ども自身の悩みや不安は男女とも「進路に関すること」の割合が最も高くなっています。進学を希望する分野で最も多いのは、男子が「理系学部・学科」43.7%、女子は「文系学部・学科」41.5%となっています。調査時点での子供の年齢は16歳(高校1年生等)です。

### 1. 学校生活

#### (1) 学校選択の理由

現在通っている学校を選択した理由(複数回答)は割合の高い順に、男子が「自宅から近いから・通いやすいから」37.7%、「合格できそうだったから」32.9%、「学校の雰囲気がよかったから」26.9%。女子は「学校の雰囲気がよかったから」40.5%、「自宅から近いから・通いやすいから」38.8%、「合格できそうだったから」34.0%となっています。(図表不掲載)

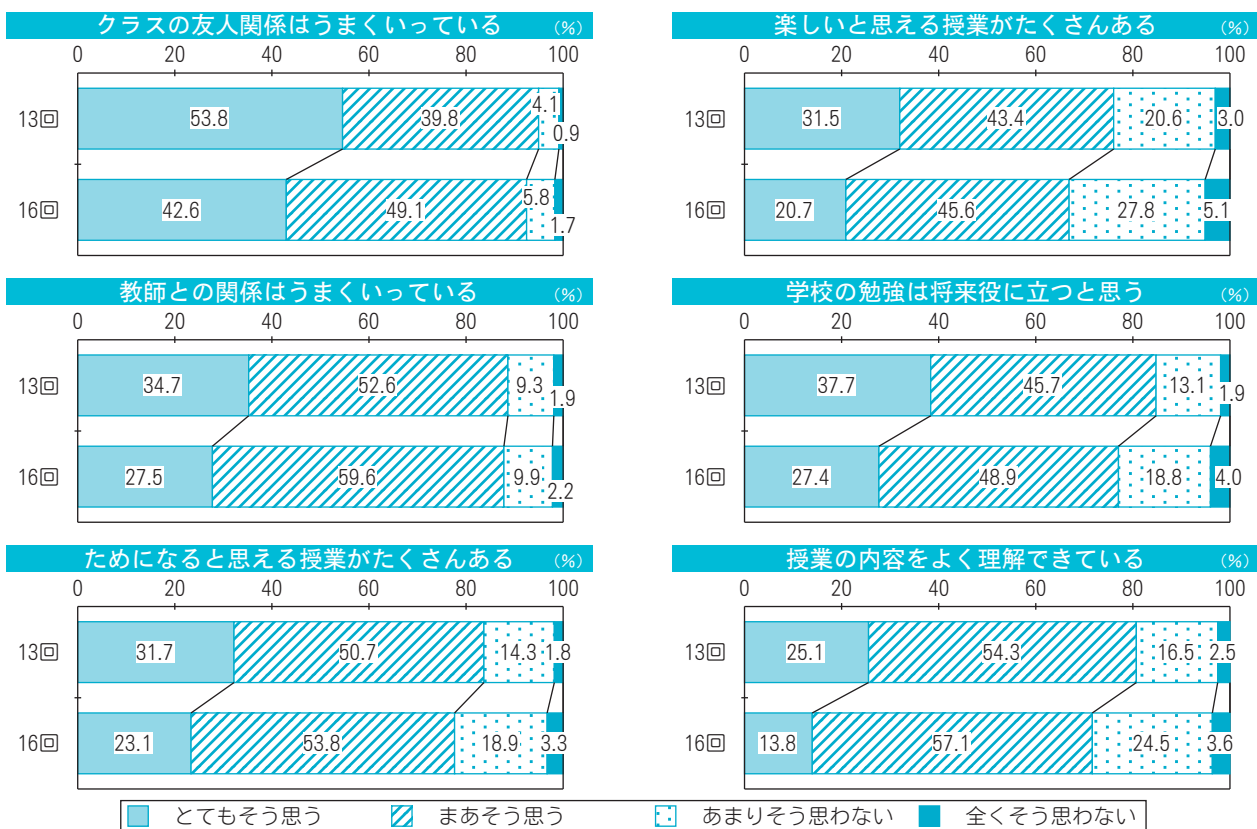
#### (2) 学校生活の満足度の変化

第16回調査(高校1年生等)と第13回調査(中学1年生)を比較してみると、6つの質問項目すべてで第13回調査よりも「とてもそう思う」及び「まあそう思う」の割合が減少していました。その中でも「授業の内容をよく理解できている」は△9.1%と最も減少しています。(図1)

#### (3) 学校外での勉強時間の変化

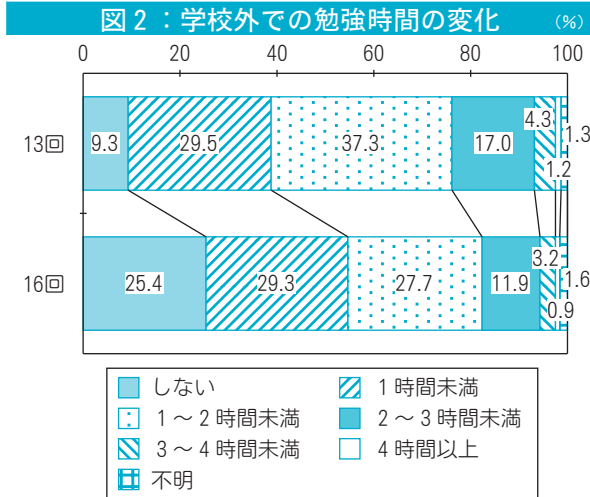
平日に授業の予習・復習や受験のための家や塾などでの勉強時間は、割合の高い順に「1時間未

図1：学校生活の満足度の変化



\*なお、図表等の数値は四捨五入の関係で、内訳と合計値が合わない場合があります。(以下同様)

満」29.3%、「1時間～2時間未満」27.7%、「しない」25.4%となっています。第13回調査よりも平日に学校以外で勉強「しない」者の割合が増加しています。(図2)



#### (4) 悩みや不安

悩みや不安の種類(複数回答)は、男女とも割合の高い順に「進路に関すること」男子27.8%、女子42.5%、「学校や塾の成績に関すること」男子20.5%、女子31.9%となっています。また、男子と比較して女子は「自分の容姿に関すること」や「友達との関係に関すること(友達ができない・友達の輪に入れられないなど)」の割合が高くなっています。(表1)

**表1：悩みや不安の上位5項目(複数回答)**

男子		女子	
進路	27.8%	進路	42.5%
学校等の成績	20.5%	学校等の成績	31.9%
親の干渉	5.9%	容姿	17.4%
容姿	5.1%	友人関係	11.9%
部活動	5.0%	部活動	8.8%

## 2. 進路と将来

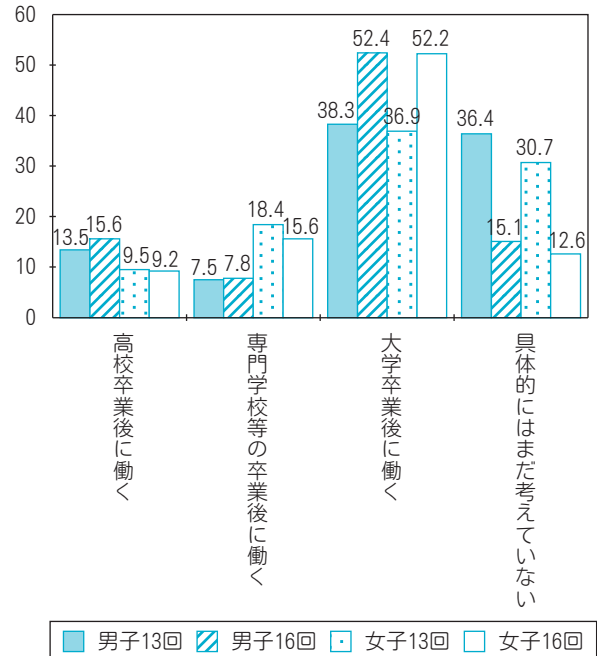
### (1) 子供自身が考える将来(進路)の変化

将来の進路は、男女とも最も高いのが「大学卒業後に働くことを考えている」男子52.4%、女子52.2%となっていました。

第13回調査と比較してみると、男女とも「具

体的にはまだ考えていない」の割合が減少し、「大学卒業後に働くことを考えている」が増加しています。(図3)

(%) 図3：子供自身が考える将来(進路)の変化



### (2) 進学を希望する分野

短期大学、高等専門学校、大学への進学を希望している者の希望する分野は、割合の高い順に男子は「理系学部・学科」43.7%、「文系学部・学科」32.1%、「まだ決めていない」18.1%。女子は「文系学部・学科」41.5%、「理系学部・学科」27.5%、「まだ決めていない」17.2%となっています。(図表不掲載)

2001年に生まれた子の生活環境を追跡調査した結果が公表されました。将来の進路については、半数の子供が大学進学を考えていますが、中学1年生の頃より、学校外で勉強しなくなった者の割合は増えています。16歳になった高校1年生達の現在の様子がよく表れています。

(奥 桂子)